

あなたの大切な人のこころは大丈夫ですが —うつ病講演会を開催—

うつ病についての正しい理解を図るため「あなたの大切な人のこころは大丈夫ですか～うつ病を知ろう～」と題した講演会が11月14日、町中央公民館で開催されました。講演会には沖縄県立南部医療センター・こども医療センター精神科医の井上幸代さん（写真）を講師に招き、参加者はうつ病の原因や症状などを学びました。

井上さんは、うつ病は15人に1人がかかる病で、その原因も身近にあると説明。「特に、うつ病とアルコール依存症の並存は危険。」と強調しました。また、うつ病患者に対しては「治療は焦らない、あきらめない。」患者を見守る家族には「患者の負担を減らし、療養できる環境を作ることが大事。」とアドバイスしました。会場からは「子どものうつ病に関してはどんな状況か」「うつ病の前兆として特に気をつけることは」などの質問が寄せられ、関心の高さを伺わせました。



まちの話題

オキコパンが町内の幼稚園・ 保育園に絵本とパンを寄贈

（株）オキコ（仲田龍男代表取締役社長）は、地域の子どもたちへの貢献活動の一環として、町内23園の幼稚園・保育園に絵本とパンを贈りました。このたび贈られたのは、「くまのがっこう」シリーズの絵本と児童1879名分のパン。町を訪れた小橋川共政常務取締役は「心温まるストーリーに触れ、西原の子どもたちの情操教育につながってほしい」と趣旨を説明しました。



サル社会から学ぶ子育てとは —西原町学対協地域教育部会主催、特別講演会—

家庭教育及び地域教育力の向上に資することを目的に、西原町地域ぐるみ学力対策協議会（町学対協）地域教育部会が主催の「サル社会から見る人間社会～サルの子育てに学ぶ～」と題した講演会が11月15日、町中央公民館で開催されました。

講演会では、サル山で有名な高崎山動物園の案内役を30年以上務めた松井猛さん（写真）が講師を務め、サルの生態観察を長年続けた体験を講演しました。母ザルは、産まれたばかりの子どもは愛情深く育てるが、

野生環境に適応させるために、歩行訓練や乳離れの時期には徹底的に厳しく子育てをすと説明。「厳しくザルを見放す母ザルを見て、『子どもが泣いても、駄々をこねても甘やかさず母親が我慢することが大切』と教わった。」とサル社会からの学びを語りました。そして、「高崎山は集団生活の大切さや命の尊さ、親子の絆の大切さなどが学べる自然教育の場。」と語りました。



小中学生がビーチバレーで 熱戦を展開

「第4回西原町小・中学生ビーチバレー大会」が11月13日、西原マリナーパークきらきらビーチで開催されました。秋晴れの空のもと、選手の気迫や応援団の掛け声で、ビーチは熱気と歓声に包まれました。なお、各部門の優勝チームは次のとおりです。

【小学4年生以下】西原東小男子【小学5年生以上】西原クラブ男子A【中学生男子の部】TEAMたぬき（西原東中）【中学生女子の部】アカーンファイブ（西原東中）



さわふじ懇話会が男女共同 参画推進条例要綱案を答申

西原町さわふじ懇話会は、3月に諮問を受けた「西原町男女共同参画推進条例要綱案」について、11月21日に上間明町長へ答申を行いました。答申するにあたって大城貴代子会長は、「この答申は私たちだけでなく、さわふじプラン地域推進委員との合同会議や町民ミーティング（11月7日）などで広く町民と意見を交わして作った。条例制定後は、町民への周知徹底と、男女共同参画事業への予算措置をしっかりとお願いしたい。」と意見を述べました。上間明町長は、「答申をしっかりと受け止め、条例制定に向けて取り組んでいく。さらに男女共同参画都市宣言まで検討していきたい。」と今後の抱負を語りました。当該条例は、平成24年4月の施行を目指し、3月議会に上程される予定です。



11月7日に開催された町民ミーティング

沖縄の農業と6次産業化を考えよう —琉球大学農学部が講演会を開催—

「地場産業が支える食・農・環境」と題した第3回琉球大学農学部地域貢献シンポジウム（共催：西原町）が11月18日、町中央公民館で開催されました。基調講演では仲地宗俊氏（琉球大学農学部教授）が「沖縄県における地場産業と農林水産業の連携」をテーマに講演。「沖縄では1次、2次、3次産業が相互に関連し、相乗効果を生み出す6次産業化が展開されている。今後は生産者側の農林水産業を基盤に構築することが重要。」と沖縄農業の展開を説明しました。

また一般講演では、沖縄伝統の製法で塩を生産し、シママース復活を目指す友寄恵氏（㈱青い海）や、今帰仁村で有機農業や農業体験に取り組む加力謙一氏（農業生産法人㈱あいあいファーム）らが農産物の生産、加工、販売などの先進事例を紹介。琉球紅茶の栽培とブランド化に取り組む内田智子氏（㈱沖縄ティーファクトリー代表）は「沖縄の土壌は紅茶栽培に適している。生産だけでなく商品化できることは強み。」と沖縄の特性を生かすことの重要性を説明しました。そのほか、シンポジウムの最後に総合討論会が行われ、講演者が農業の振興について意見を交わしました。



町文化協会が展示会を開催、 力作160点を展示

「継承・創造・躍進」をテーマに町文化協会（新川善一郎会長）が主催する、第11回西原町合同展示会が11月4日から6日の3日間、町中央公民館で開催されました。展示会には写真・書道・美術工芸などの作品約160点が展示され、会場を訪れた人は芸術の秋を堪能しました。また、茶道部会による呈茶席が設けられ、伝統の味に触れました。

4日に行われたオープニングセレモニーでは、新川会長が「会員が展示会に向けて、力作を用意した。たくさんの方に成果をご覧ください。」とあいさつしました。

